



大阪府立成人病センターと連携協定を締結

森ノ宮医療大学は、平成29年3月に「大阪国際がんセンター」として生まれ変わる大阪府立成人病センター（大阪市東成区）と相互連携協定を締結しました。

6月13日（月）に行われた調印式では、成人病センターの松浦成昭総長が、「同じ森ノ宮が発祥の病院と学園が連携を結ぶことで、ともに発展するきっかけにしたい」とあいさつ。本学園の清水尚道理事長は「学園本部の近隣に位置する大阪府立成人病センターと連携協定を締結できることは大変ありがたい」と述べました。

大阪府立成人病センターと本学は今後、学生の病院実習や、双方の施設の活用、人材の相互派遣等で、連携・協力を進めていく予定です。



5年目を迎えた市民公開講座



大阪府立急性期・総合医療センターとの連携事業として平成24年度から開催してきた「市民公開講座」は、平成28年度で5年目を迎えました。

今年度からは、臨床検査学科と作業療法学科の開設で講師の顔ぶれがさらに多様化しました。6月19日（日）には「乳がん」をテーマに今年度の第1回目を開催し、大阪府立急性期・総合医療センター乳腺外科主任部長の元村和由先生が「乳がん—最近の進歩—」と題して基調講演を行いました。また、本学の作業療法学科中西一助教による「乳がん手術とリハビリテーション」、看護学科久木元由紀子准教授による「リンパ浮腫の予防とケア」、鍼灸学科増山祥子講師による「がん疼痛と鍼灸療法」の講演が行われました。

今年度はこのほか、9月11日（日）に「骨粗しょう症」、10月30日（日）に「高齢者と眼疾患」をテーマに開催する予定です。

東ティモールから大学生視察団が来校

日本とアジア大洋州地域の相互理解などを目的とした外務省の事業「JENESYS2015」の一環で、東南アジアの島国東ティモールの訪問団が平成27年10月に来日し、森ノ宮医療大学を訪れました。メンバーは東ティモールで総合医療や看護、助産、薬学、栄養を専攻する大学生など約20名。本学での滞在は4時間足らずと短いものでしたが、ミニ講義や施術所、実習室の見学の後はメディカフェで本学学生との「ランチ交流会」に参加しました。

交流会では、双方の学生がなごやかにランチを食べながらコミュニケーションをとり、会場は言葉の壁を感じさせない一体感と熱気に包まれました。終了後、本学の学生からは「もっと時間がほしかった」「英語を話せるようになりたいと思った」などの感想が聞かれました。

